

こころのオアシス

第1号

悩みからの解放

自分の力で生きていると思うから心配するのです。神様に生かされていると分かれば心配は無くなります。

21世紀は、‘こころの時代’と言われています。誰もが持っているストレス。適度なストレスは大切ですが、過剰なストレスは体やこころの病気を引き起こしてしまいます。

あなたも悩みからの解放を必要とされているのではないのでしょうか。

心配のむなしさ

イエス・キリストの言葉に「あなたがたのうちだれが心配したからといって、自分のいのちを少しでも伸ばすことができますか。」とあります。

また格言にあるように、「心配して増えるのは皺（しわ）だけ。」です。でも、それでも心配するのが人間です。

では、どうすれば悩みから解放されるのでしょうか。

**あなたの事を
心配して下さる
神様を見出して下さい。**



詩篇 55 篇 22 節「あなたの重荷を主にゆだねよ。主は、あなたのことを心配してくださる。」

この天地を造られた神様が、あなたのことを心配して将来のことを計画してくださっているのです。ですから、神様に人生をおゆだねする時に、心配は無くなります。

エレミヤ 29 章 11 節「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」



こういうわけですので、この神様に守られた信仰者は次のように言っています。

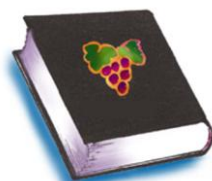
「平安のうちに私は身を横たえ、すぐ、眠りにつきます。主よ。あなただけが、私を安らかに住まわせてくださいます。」
(詩篇 4 篇 8 節)

あなたもこの素晴らしい神様を求めて、悩みから解放されませんか。

目からうろこが落ちる？

よく「目からうろこの…」や、「目からうろこが落ちる…」といった言葉を耳にします。その意味は、「あることがきっかけとなって、迷いからさめたり、物事の実態がわかるようになる」ことですが、実はこの不思議な言葉は、新約聖書の「使徒の働き」からきています。聖書には『するとただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。』と記されています。

お分かりのように、「うろこのようなもの」とは、真実を見ないために目を覆うもののたとえ、ということになります。身近に使われている言葉が、聖書からきているということが他にもありますので、また次の機会にご紹介致します。



神さまは、私を障害者として造られたわけではなく、別の原因でこういう体になったのだと思います。それに、神さまは全能ですから、私の手足を造り変えることもおできになるはず。でもそうならず、私に障害を残しておかれるのは、人間にとって第一に大切なのは、体の健康よりも、たましいの健康であることを明らかにするためだと思っています。

私はそんな神さまをたたえるために、よくコンサートでこの曲を歌います。

♪『主は私の羊飼い。
私は乏しいことはありません。』

聴き手は、「この人は両手がないのに、あんなに喜んで、“私は乏しいことはありません”と歌っている」と驚くかもしれません。

私は心からこの歌を歌うことができます。神さまは私に、手の代わりに心の中に豊かさを与え、私が自分自身を愛せる

ようにしていただきました。だから私には、このような体で生きることを意味を、いつも見つけるゆとりがあるのです。

私は障害を持っていたためにたくさんの友人を得、パラリンピックに出場し、歌うことも、海外への旅行もできました。もちろん、コップ一杯の水をこぼさずに飲めるようになるのさえ、普通の人には考えられないくらい時間がかかりました。でもそのおかげで忍耐強くなり、いろいろな知恵が与えられたのです。

このように、私が生きるのに必要な力や喜びは、すべて神様が与えてくださることがわかったので、まさに「乏しいことはない」のです。だから神さまに「この体をどうして治してくれないのよ」などと言って腹を立てたり、恨んだりしたことは一度もありません。

いい人生だと思っています。

(著書：「マイライフ」より引用)

ゴスペルシンガー
レーナマリヤ

生命の大切さ

数年前の阪神大震災に続き、少年によるショッキングな事件が発生しました。また私の周囲では、親類や知人の死が相次ぎ、私は生命の大切さを知りたくてある教会に行ってみました。1997年7月のことでした。

その教会では、進化論の間違いについて教えられました。多くの方は、深く考えることなく進化論を受け入れているのではないのでしょうか。私もそうでした。

ならば聖書のとおり、神様が目的をもって人間を創造されたとすれば……。

私はそこに生命の積極的な価値が見出されるのでは、という気がしました。

1997年9月、転勤のため家族とともに福島県に移ることになり、紹介された教会に通うことになりました。私はここで米国人宣教師による日曜礼拝や聖書の学びをとおり、いろんなことを学びました。

数千年も前から記述され始め、写本で広められた聖書が驚くべきほど忠実に現代に伝えられていること、その内容も矛盾せず、一貫して人に希望の光を与える神の言葉であるということ、そして何よりも、神のひとり子イエス・キリストが人間として誕生され、罪がないのに汚れた人類の、他ならぬ私の身代わりとして十字架上で死なれ、

そして3日目によみがえられたということも。

「目からうろこのような物が落ちた」気がした私は、イエス・キリストを救い主と信じ、1997年7月11日にバプテスマ（洗礼）を受けました。



さて、私たちを創造された神様は「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」と言われています。神様から愛されない生命などどこにもありません。誰でも価値のある尊い存在なのです。

堺市在住 Yさん(会社員)



救い主イエスの
手にある 身は
いとも やすし

いと静けき 港に着き
我は今 やすろう

人生の海の嵐に
もまれきし
この身も
不思議なる
神の手により
いのちびろいしぬ

♪ 人生の海の嵐に
(聖歌四七二番)